

目的 演者らは、前報で大阪地区に於ける高齢者衣生活、服色嗜好について、若年者との比較調査の結果、いずれも寒色系を上位、暖色系を下位に示す色群の結果を得、報告した。今回は、高齢者の服色嗜好が環境の地域差といかなる関係を持っているかを追求したので報告する。

方法 対象は健康な成人女子、年齢20才代、50才代、60才代、70才代。地域青森、鹿嶋、大阪の一般及び学生の合計857名である。回収有効数97%であった。調査は、1981年5月～6月、各地区同時に、いずれも北窓の明るさを条件とし実施した。調査項目は生活背景質問7項目、前調査により選出した8色相の資料(マンセル色料使用)と問欠的に好みの順位決定と3回、及び順位1位、8位の選択要因20項目である。

これ等の各項目データは、正規化順位法で順位関係を測定し、SD法により地域3区分、年代4区分による嗜好の比較検討を行った。

結果 1位に於ては、50才代は地域間に於ける変化はなく好みの要因にも一致の結果を得た。8位に於ては、50才、60才、70才共、地域間及び選択の因子は強い相関を示した。尚、いずれの地区に於ても、高齢者群1位は、若年者の8位に向ってグレード状の移行を示し、嗜好の要因に差異を見た。